

## 演題名 高齢者の潜在的な嚥下機能低下と転倒骨折の関係について

医療法人凌雲会稲次整形外科病院リハビリテーション部

発表者氏名 平林 卓

共同研究者氏名 山本 あゆみ 村口 史也 稲次 美樹子

【はじめに】以前より高齢者の転倒や骨折と低栄養状態の関係性については知られている。低栄養状態の主な要因として背景に潜在的な嚥下機能の低下があり、低栄養状態と嚥下機能低下の相関関係が示唆されれば嚥下機能の低下と高齢者の転倒骨折との関係が結びつくのではないかと考えた。そこで高齢の転倒骨折患者を対象に嚥下機能と栄養状態や高齢者の転倒骨折の因果関係について検証を行ったので報告する。

【対象】2009年12月～2012年4月の間に転倒による骨折が主病名で当院に入院した患者のうち、嚥下機能の低下が疑われ嚥下造影検査が実施された17名（男性3名 女性14名 平均年齢 $85.7 \pm 15.8$ 歳）。対象の整形外科疾患は大腿部転子部骨折、大腿部頸部骨折、脊椎圧迫骨折、下腿骨折とし、中枢疾患の既往のあるものは除外した。

【方法】対象患者に対し、当院で行なわれている入院時の栄養スクリーニング（BMI、血清アルブミン（以下 Alb.）、食事摂取量）で栄養状態の問題の有無を確認。問題ありと判断された患者の嚥下機能と栄養状態の相関関係をみた。嚥下機能は藤島式嚥下グレード（以下嚥下 Gr）で9以下及びトロミ剤の使用とし、栄養状態はBMIと上腕筋囲（以下 AMC）を指標とした。今回食事摂取量は入院前の状態を反映しておらず、Alb.は炎症反応により誤差が生じる可能性があったために項目からは除外した。

【結果】今回対象となった骨折患者17名中、嚥下機能の低下有りと判断されたのは12名。その全てに低栄養状態が認められた。これら患者の嚥下 Gr と BMI、AMC の相関係数はそれぞれ0.57、0.70と中等度の相関関係にあった。

【考察】嚥下機能の低下が疑われた骨折患者の全てが当院スクリーニングによる低栄養状態に該当。また嚥下機能低下と低栄養状態に有意関係がみられた。これらから嚥下機能低下と高齢者の転倒骨折には何らかの因果関係があると示唆された。今後言語聴覚士として嚥下機能の低下がみられる患者に対して機能向上に早期から関わるとともに、家族に患者の嚥下に適した食事などの情報を提供を行い、栄養状態の維持改善に寄与していく事が高齢者の転倒骨折のリスク回避に重要と考えた。